

講演

3

奄美大島における外来種フィリマングースの根絶と 在来生物の回復

生物多様性領域 生物多様性評価・予測研究室 主幹研究員

深澤 圭太

外来生物は世界各地で生物の絶滅を引き起こしてきました。生物多様性の保全・回復を図る上でその対策が急務となっています。2024年9月、奄美大島におけるフィリマングース（以下、マングース）の根絶が環境省により宣言され、30年以上にわたる防除事業が実を結びました。また、マングースの個体密度低下に伴い、アマミトゲネズミなど多くの固有種の目覚ましい回復が確認されています。講演者はマングース防除事業の効果測定の研究を進めており、根絶宣言に際しては根絶の確からしさの指標である「根絶確率」の算出を担当しました。奄美大島におけるマングース防除の取組やその成果、そして根絶宣言まで、最新の研究成果と共にご紹介します。



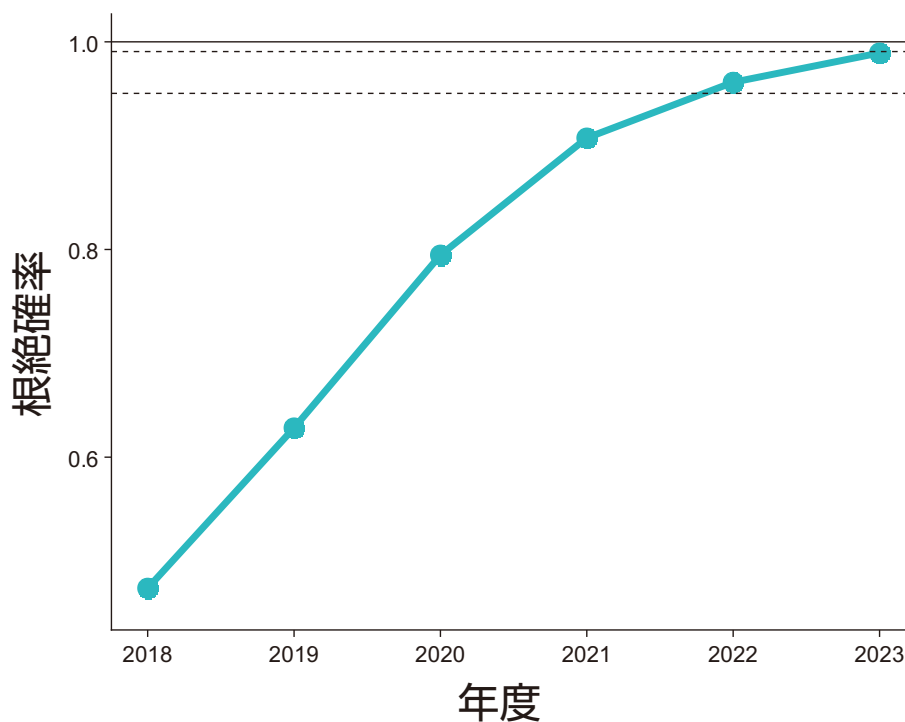
講師プロフィール

深澤 圭太（ふかさわ けいた）先生

生物多様性領域 生物多様性評価・予測研究室 主幹研究員

経歴

横浜国立大学大学院環境情報学府博士課程前期を修了。財団法人自然環境研究センターにおいて研究員として勤務しながら横浜国立大学大学院環境情報学府博士課程後期を修了し、博士（学術）の学位を取得。2011年5月に国立環境研究所に入所し、特任研究員、研究テーマ型任期付研究員、ならびに主任研究員を経て、2025年7月より現職。環境省「奄美大島におけるフィリマングース防除事業検討会」（2011～2024年度）においては、検討委員としてフィリマングースの防除事業に協力。2023年度には、自動撮影カメラ（カメラトラップ）を用いた日本における野生動物モニタリングの共同調査プロジェクト「Snapshot Japan」を発足。



独自の根絶確率算出モデルで算出したマングースの根絶確率の変化